

知的障がいのある子どもたちに、 「特別の教育課程」を編成できます

○知的障がいとは

知的障がいとは、知的機能（認知、言語など）が同年齢の子どもの平均的水準と比較して有意に遅れがあり、また適応行動（概念的・社会的・実用的な適応スキル）の困難さを伴うために、日常生活や学校生活に支障が生じていること指します。親の育て方や本人の怠学でなるものではありません。

知的障がいのある子どもの学習上の特性

- 知識やスキルが断片的になりやすく、実際の生活の場面に生かすことが難しい
- 成功体験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。

（特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（平成 30 年 3 月 P26））

知的障がいのある子どもの教育的対応の基本

- 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して、日々の生活の質が高まるよう指導するとともに、よりよく生活を工夫していこうとする意欲が育つよう指導する。
- 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性が育つよう指導する。その際に、多様な進路や将来の生活についてかかわりのある指導内容を組織する。

（特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（平成 30 年 3 月 P27））

「知的障がいのある子どもが、通常の学級で教科書を学ぶだけで、本当にこの子にとっていいのだろうか」「通常の学級で勉強し、難しくなったりペースが追いつけなくなったら個別や小集団で勉強し、本当にこの方法で大丈夫だろうか」

こういった声が、芽室町内の特別支援学級の先生方から聞かれていました。

各教科等を合わせた指導や、自立活動など、
その子に応じた「特別の教育課程」で、

その子を将来納税者にしよう！

特別の教育課程は以下の3つがあります。

(1) 自立活動の指導

障がいによる学習上または生活上の困難を克服し自立を図るための学習：自立活動を取り入れること、とされています。(学習指導要領総則第1章第4の2)
学習内容として6区分27項目が示されており、そのすべてを行うのではなく、対象の子どもに応じて指導内容を決定します。

(2) 各教科等を合わせた指導

特別支援学校(知的障がい)において、特に必要のあるときは、各教科、道徳、外国語活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができます。(学校教育法施行規則第130条第2項)

(3) 各教科

子どもの状態にあわせて、下学年の教科の目標・内容に替えることができます。
また特別支援学校の教科の目標・内容に替えることができます。(学習指導要領総則第1章第4の2)
教科書をその子にあわせて替えることができます。(学校教育法施行規則第139条、学校教育法附則第9条)

特別支援学級の教育課程は、基本的には、小・中学校の学習指導要領に基づいて編成されますが、特に必要がある場合には、知的障がいの特別支援学校の小・中学部の各教科に替えたりするなど、実態に応じた教育課程を編成することができます。(学習指導要領総則第1章第4の2)

Q：自立活動や各教科等を合わせた指導は、何時間やればいいんですか？

A：児童生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、指導内容を設定し、そのために必要な時数を配当します。単元を構成する場合でも、学習内容により、1つの単元が2、3日で終わる場合もあれば、長期にわたる単元も考えられ、年間における単元の配列や各単元の構成について検討する必要があります。

Q：自立活動や各教科等を合わせた指導は、どうやって授業内容を決めるんですか？

A：知的障がい特別支援学級の先生には、学校の通常の教育課程に加え、特別支援学校(知的障がい)の学習内容を参考資料とし、児童生徒の実態に応じた教育課程を編成することが求められます。児童生徒が学びを定着させ、生活の中で使用でき、「できた!」と実感できるための内容です。
各教科等を合わせた指導では、「日常生活の指導」「生活単元学習」「作業学習」「遊びの学習」などがあります。(特別支援学校学習指導要領解説各教科等編P31～)

以下に教科別の指導の場合も含めた、一般的な授業内容決定の流れをお示しします。

① 実態把握	対象児童生徒の障がいの状態や興味関心、生活上の課題、知的な水準などを把握します。
② 年間指導計画	他教科や行事との関連やつながりを確認し、これから企画する授業や単元の配列を計画します。
③ 学習指導要領における目標	これから企画する授業や単元と対応する学習指導要領に示されている目標・内容を確認します。各教科等を合わせた指導で単元計画を立てるときは、取り扱う各教科等の目標の系統性や内容の関連性を明確にします。
④ 学習集団の単元目標	児童の実態、活動の特徴、使用する教材、獲得させたい行動やスキルを考え、実際の学習集団を対象とした単元の目標を、3観点ごとに設定します。
⑤ 個別の単元目標・評価規準を設定する	④の単元目標の下位目標として、児童生徒個々の目標を3観点ごとに目標・評価規準を立てます。集団の単元目標より具体的に表現することで、一人ひとりに身につけさせたい資質・能力が明確になります。
⑥ 単元目標を踏まえた単元計画、単元名	学習内容・学習活動を配列し、単元の計画の全体像をつくります。児童生徒にも理解される単元名を設定します。他教科や行事との関連やつながりを記載するとより望ましいです。
⑦ 本時の展開	本時の目標、学習活動、教材、支援方法、評価規準を記載します。
⑧ 評価	評価規準に沿って評価し、次の学習活動や単元または支援方法の改善に生かします。

このことについて、国立特別支援教育総合研究所 HP 内「すけっと（知的障害特別支援学級担任のための授業づくりサポートキット）」に、シートに沿って記載することで上記①～⑧が策定できるサポートシート（すけっと別冊「事例編」内）や、年間指導計画例が示されています。

https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability_list/intellectual/sk-basket

年間指導計画の例 2【障害の程度が軽度、または高学年の児童を想定】													
学校名		○○市立○○小学校		学級名		○○1組（知的障害特別支援学級）		令和○年5月1日現在					
月単元の名称		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科 科目	国語	・新読 ・クロスワード、意味調べ	・漢字、ローマ字の読み書き ・生活作文	・聞く聞くドリル ・俳句大会（得意秋冬4回）	・読む読むドリル ・俳句大会（得意秋冬4回）								
	算数	・新読と新題 ・かけ算 ・2桁・3桁のたし算・ひき算 ・100より大きい数	・生活作文 ・交換日記	・読む読むドリル ・俳句大会（得意秋冬4回）	・読む読むドリル ・俳句大会（得意秋冬4回）								
	音楽	・自由の恵みとひびき ・にっぽんのうた	・ひびき合いを生かして ・えんそうのみよりく	・音楽のききどころ ・豊かな表現をもとめて	・音楽のききどころ ・豊かな表現をもとめて								
	図工	・感じたままに花 ・口から	・切ったちんすの切りはさみと紙のハート ・口から	・図工の歌 ・口から	・図工の歌 ・口から								
体育 ※交流	体づくり運動 ネット型（ソフトバレーボール）	体づくり運動 ネット型（ソフトバレーボール）	体づくり運動 ネット型（ソフトバレーボール）	体づくり運動 ネット型（ソフトバレーボール）	体づくり運動 ネット型（ソフトバレーボール）								
	ハードル走 クロール・平泳ぎ	ハードル走 クロール・平泳ぎ	ハードル走 クロール・平泳ぎ	ハードル走 クロール・平泳ぎ	ハードル走 クロール・平泳ぎ								
道徳		（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） 人生を変えるのは自分 友達について考える 友達についていかに考えてやってみよう 礼儀作法と清潔、情報について考えよう 卒業に向けて											
自立活動		（自分や友達の良いところを認める、遊びのルールを理解し守る、など） ・ビジョントレーニング ・上手に相手の話を聞く（しっかりと見る・聞く） ・身体機能カード、など（表情から気持ちを読み取る） ・こんなときどうするの？（SSIT） ・ゲーム大会をしよう											
各教科等 を 含む 生活単元学習	日常生活の指導	・あいさつ、返事 ・身のだしなみ ・教室を育てて、調理して食べよう	・時間や整理して行動する ・うがい、手洗い ・掃除を育てて、調理して食べよう	・休活動、掃除を自分で行う ・カレンダーを活用する	・休活動、掃除を自分で行う ・カレンダーを活用する	・身のまわりの整理整頓							
	生活単元学習	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）	・（日々の生活や学習の中で、その都度指導、支援を行う。） ・人生を変えるのは自分 ・（自分や友達の良いところを認める。遊びのルールを理解し守る、など）

注：指導の形態によらず、基となる各教科等の内容を具体的な指導内容におこなうものに表示しています。

注：指導の形態によらず、基となる各教科等の内容を具体的な指導内容におこしたものを表にしています。

（年間指導計画例（障がいの程度が軽度、または高学年の児童想定））

Q：各教科等を合わせた指導の評価は、どのように行うのですか？

各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要です。活動ごと、あるいは授業、単元において、設定した目標が達成できたかどうかを評価します。

また観点別評価と併せて、個別課題達成度評価を文章で示した方が、保護者等にとってわかりやすい場合がありますので、考慮します。

児童生徒が学習目標を達成できたかどうか、どのような力を身につけられたかどうかの評価は、教師の授業改善に必ず生かします。



P550～610

各教科の観点別目標・内容の一覧は
参考になります

【特別支援学校学習指導要領解説 各教科編】

「でも、保護者が教科書での勉強を希望しているんです」

特別の教育課程を編成しようとした際、保護者の理解を得られない場合があります。

保護者は、教育課程編成について知識がないのが一般的ですので、情報提供や説明せずして、子どもの実態に合った「特別の教育課程」を希望することはありません。

また知ったあとでも、内容や主旨に同意できなかったり、知的障がいのない児童生徒の学びへの参加を考え、教科書での学習を希望する場合があるかもしれません。

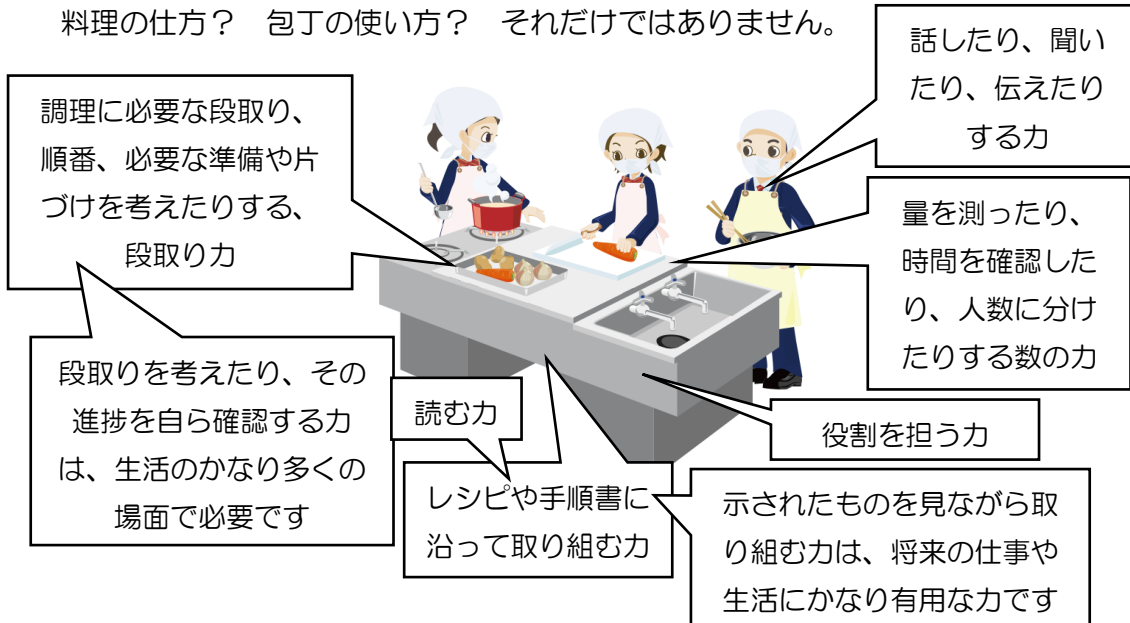
いずれにしても、学校は教育課程のプロとして、児童生徒の実態に合った「自立に向かう学び」を企画し、本人・保護者へ情報提供・提案する必要があります。

保護者へ「特別の教育課程」を説明する資料（P5～6）をご活用ください。

特別支援学級の子どもたちには、 「特別の教育課程」を編成できます

たとえば、調理実習をしたら、子どもたちはどんなことを学びますか？

料理の仕方？ 包丁の使い方？ それだけではありません。



調理実習の前に材料の買い物に行ったり、かかったお金を計算したりするとさらに学習内容をふくらませられます。一定期間のうちに2回、3回と計画すると、より定着が期待できます。

この全部を目標にするのではなく、お子さんが今とくに学んでほしいことにしぼって目標を立てます。

文字は文字、数は数、と分けて学ぶのではなく一つの題材（例は調理実習）の中に合わせて学んだり、紙に書いてあるものだけでなく生活の経験を通して学ぶことを、

「特別の教育課程」と言います。以下のような勉強の名前で呼ばれます。

自立活動	学習や生活が高まるように学ぶ時間です。6区分 27 項目例示されており、その中からお子さんに必要なものに絞って学びます。
生活単元学習	夏祭りや栽培・収穫、冬の遊びや見学学習、「〇〇名人になろう！」など、生活に即したテーマを学ぶ時間です。
作業学習	作業・職業的な活動を通して学ぶ時間です。
日常生活の指導	着替え、排せつ、準備や片づけ、係活動など日常生活の中のスキルを取り上げて学ぶ時間です。
〇〇タイム	上記のような学習内容を、子どもにわかりやすく表現した時間です。

芽室町内での事例

生活単元学習

「調理をしよう」「買い物に行こう」などの単元じゃがバス乗車、買い物、調理、まとめをタブレットでまとめるなどの活動を通じて、下記のようないろいろな学びが組み合わされています。

- ・バスの出発時刻を意識し時間に合わせて行動をする。
- ・バスやお店での公共マナーを知る。
- ・数やお金をとおした算数。
- ・調理や準備、後片付けの手順理解、練習。
- ・自分が使うものを選び購入し、その後も大事に使っている。
- ・キーボード入力やプレゼンテーションソフトの利用。



作業学習

様々な材料・道具を使って作ったり、それを販売するなどの活動を通じて、下記のようないろいろな学びが組み合わされています。

- ・作業工程を理解する。手順を自分で進めていく。
- ・けがき・切断・磨き・組立・塗装・梱包など様々な工程の体験。
- ・いろいろな工具の使用。
- ・完成した作品を展示即売会で販売する。
- ・前期には何度も教師に確認することが多いが、後期には自立して取組める。

あなたのお子さんに合った、将来の自立に必要な「学び」について、個別支援計画を通じて相談させてください。今後よろしくお願いいたします。